

鉄筋工事	⑩ ① 鉄筋	鉄筋の種類 (5.2.1) <table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び径 (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>○SD295</td><td>※ D16以下</td><td></td></tr><tr><td>・SD345</td><td>※ D19以上</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	○SD295	※ D16以下		・SD345	※ D19以上		・			・			コンクリート工事	施工完了後の溶接部の試験 ○外観試験 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による ○溶接長さ確認 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ・ロット ・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする 試験の箇所数 ・1ロットに対して () 箇所 ・全数 試験項目 ※内部欠陥の検出 試験方法 ※JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準) による 不合格となった場合の措置	11 寒中コンクリート 適用期間 (月 日～ 月 日) (6.11.1、2) 構造体強度補正值 (S) を換算温度を基に定める場合 ・図示による ()、S = ()	羽生市立西中学校校舎 1号館トイレ改修工事	特記仕様書 (改修その6)	A-06
	種類の記号	呼び径 (mm)	備考																				
	○SD295	※ D16以下																					
	・SD345	※ D19以上																					
	・																						
	・																						
	② 溶接金網	形状等 (5.2.2) <table><tr><th>種類</th><th>種類の記号</th><th>網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr><tr><td>○溶接金網</td><td></td><td>6φ×100×100</td><td></td></tr><tr><td>・鉄筋椅子</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	○溶接金網		6φ×100×100		・鉄筋椅子				12 暑中コンクリート 適用期間 (月 日～ 月 日) (6.12.2) 構造体強度補正值 (S) ※6N/mm ² ・図示による ()、S = ()								
	種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																			
	○溶接金網		6φ×100×100																				
	・鉄筋椅子																						
③ 鉄筋の継手	鉄筋の継手方法等 (5.3.4) <table><tr><th>部位</th><th>継手方法</th><th>呼び径 (mm)</th></tr><tr><td>柱、梁の主筋</td><td>・ガス圧接 ・機械式継手</td><td>※ D19以上</td></tr><tr><td></td><td>・溶接継手</td><td></td></tr><tr><td>耐力壁の鉄筋</td><td>・重ね継手</td><td></td></tr><tr><td>基礎、耐力スラブ、土圧壁</td><td>・重ね継手 ・ガス圧接</td><td></td></tr><tr><td>その他の鉄筋 ()</td><td>○重ね継手 ○溶接継手</td><td></td></tr></table> 継手位置 ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1、6.1、7.1、7.3、8.1) ・基礎梁主筋の継手位置 ・図5.2 ・図5.3 ・図5.4 ・図示による () 柱及び梁の重ね継手の長さ ・図示による () 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3(1) (7)) ・図示による () 柱及び梁の主筋で隣合う継手を同一箇所に設ける部分の位置及び施工方法等 ・図示による ()	部位	継手方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※ D19以上		・溶接継手		耐力壁の鉄筋	・重ね継手		基礎、耐力スラブ、土圧壁	・重ね継手 ・ガス圧接		その他の鉄筋 ()	○重ね継手 ○溶接継手		13 マスコンクリート 適用箇所 ・図示による () セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメント B種 ・フライッシュセメント B種 ・シリカセメント 混和材料の適用 ・あり (標準仕様書 6.13.2(2) (7) による) ・標準仕様書 6.13.2(2) (4) による			
部位	継手方法	呼び径 (mm)																					
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※ D19以上																					
	・溶接継手																						
耐力壁の鉄筋	・重ね継手																						
基礎、耐力スラブ、土圧壁	・重ね継手 ・ガス圧接																						
その他の鉄筋 ()	○重ね継手 ○溶接継手																						
4 鉄筋の定着	鉄筋の定着長さ ・図示による () (5.3.4) 機械式定着工法 運用場所 ・図示による () 種類 ・摩擦圧接溶接合 ・蝶合グラウト固定 ・蝶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	14 無筋コンクリート コンクリートの種類 (6.14.1) ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A種、シリカセメント A種又は フライアッシュセメント A種 ・高炉セメント B種 G ・フライアッシュセメント B種 G 設計基準強度 ※18 (N/mm ²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書 6.14.1(4) による箇所 ・図示による ()																					
⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む)	最小かぶり厚さ (目地底から算出を行う) (5.3.5) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4(1) 表4.1) ・図示による () 柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・あり 適用箇所 () 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ・あり 適用箇所 () ・最小かぶり厚さに加える厚さ () mm	15 コンクリートの単位水量測定 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6.3.2(4) (c) による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値 ±15 を超え ±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値 ±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値 ±20kg/m ³ を超える場合は、生コンを打込みせずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値 ±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値 ±15kg 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 4) 3) の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4) 単位水量管理についての記録を書面 (計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、17M-9法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。																					
6 各部配筋	※図示による (5.3.7)	③ 骨材 アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下) (6.3.1)																					
7 ガス圧接	圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10) 外観試験 ※行う (全ての圧接部) 抜取試験 ※超音波探傷試験 (試験方法 標準仕様書 5.4.10(4) (a) による) ・引張試験 試験方法 ※標準仕様書 5.4.10(4) (b) による	④ 混和材料 ○混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (a) による ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (b) による																					
8 機械式継手	適用箇所 (5.5.3、5) ・図示による () H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 種類 ・ねじ式鉄筋継手 ・充填方式 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 ・ 工法 ※第三者機関の評定等を取得している工法 鉄筋相互のあき ※評定等の評価内容による 品質の確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 ※全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜取り ・ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする 試験の箇所数 ・1ロットに対して () 箇所 ・全数 試験項目 ※挿入長さ 試験方法 ※JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準) による 不合格となった場合の措置	5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ・図示による () 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による () 目地の寸法 (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3) ・標準仕様書 9.7.3(1) (7) による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による () ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1) ・図示による ()																					
⑨ 溶接継手	適用箇所 (5.5.3、5) ○図示による () H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 溶接継手の工法 ○図示による () 鉄筋相互のあき ・標準仕様書 5.3.5(4) による ・評定等の評価内容による ○図示による ()	6 湿潤養生 湿潤養生の期間 (6.7.2) ・セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日 ⑦ コンクリートの仕上り 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5) (6.8.2) <table><tr><th>種 別</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ A 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>・ B 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>・ C 種</td><td>※図示による ()</td></tr></table> コンクリートの仕上りの平たんさ <table><tr><th>種 別</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ a 種</td><td>※図示による ()</td></tr><tr><td>○ b 種</td><td>※図示による (床閉塞部 (和式便器撤去跡))</td></tr><tr><td>・ c 種</td><td>※図示による ()</td></tr></table> 打増し厚さ (6.8.1) ・打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ・20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 20mm 打増し範囲 ・図示による () ⑨ 型枠 せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ○合板 (※12mm ・) G コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 ・断熱材を兼用した型枠の使用 適用箇所 ・図示による () ・MCR工法用シートの使用 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材種・規格等 ・図示による () 6 打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6.8.1) 打増し厚さ ・打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ・20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 20mm 打増し範囲 ・図示による () ⑨ 型枠 せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ○合板 (※12mm ・) G コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 ・断熱材を兼用した型枠の使用 適用箇所 ・図示による () ・MCR工法用シートの使用 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材種・規格等 ・図示による () 10 軽量コンクリート 適用箇所 (6.10.1、2) ・図示による () 種類 ・1種 ・2種 気乾単位容積質量 ・標準仕様書 表 6.10.1 による スラブ ※21cm	種 別	適用箇所	・ A 種	※図示による ()	・ B 種	※図示による ()	・ C 種	※図示による ()	種 別	適用箇所	・ a 種	※図示による ()	○ b 種	※図示による (床閉塞部 (和式便器撤去跡))	・ c 種	※図示による ()					
種 別	適用箇所																						
・ A 種	※図示による ()																						
・ B 種	※図示による ()																						
・ C 種	※図示による ()																						
種 別	適用箇所																						
・ a 種	※図示による ()																						
○ b 種	※図示による (床閉塞部 (和式便器撤去跡))																						
・ c 種	※図示による ()																						

SCALE A1: 1/1
A3: 1/2

④ ㈱ 千葉構造設計コンサルタント

一級建築士事務所 埼玉県知事登録第 (9) 1436号 一級建築士大臣登録 第 316560号 山崎 栄市

R7.1 (Ver. R6-2)